

早期卒業制度に関するアンケートについて

1. 調査目的

高等学校の早期卒業制度の検討にあたって、大学への飛び入学の現状や高校生の意識等を調査する。

2. 調査対象

- I. 飛び入学制度をもつ大学【6大学】
- II. 飛び入学経験者【有効回答数34名】
- III. 高校生等（科学オリンピック出場者等）【有効回答数63名】

3. 調査期間及び調査方法

平成26年9月、アンケート及びヒアリング

4. 調査結果（概要）

I. 飛び入学制度をもつ大学

1. 制度開始年、入学者数、受験者数、合格者数等について

	制度導入 年度	受験者数 累積	合格者 累積	合格辞退者 累積	入学者数 累積	学士号 取得者	退学者
千葉大学	H10	295	79	2	77	56	7
名城大学	H13	34	26	0	26	21	3
エリザベト音楽大学	H16	4	1	0	1	1	0
成城大学	H17	3	2	0	2	2	0
会津大学	H18	9	4	0	4	3	0
日本体育大学	H26	1	1	0	1	0	0

2. 飛び入学者に「高校卒業」を認めることについて

(1) 高校卒業を認めることは必要と考えるか。

- ・必要（2校）
- ・どちらかと言えば必要（3校）
- ・特に必要性を感じない（1校）

(2) 必要と考える主な理由について

- ・大学在学中にやむを得ず病気・事件・事故等の災難に遭遇し、大学を卒業できなくなった場合を想定すると、中学校卒業となってしまう、進路変更の可能性に対する配慮が必要。
- ・受験者本人よりも保護者の方が敏感で、飛び入学制度普及に対する大きな障壁の一つとなっている。高校卒業の認定が、早期入学希望者増加のための決定的な要因とはなりえないが、例えば大学へ入学することにより、高校卒業の認定をうけられる等の制度があれば、受験者や保護者の安心につながる。
- ・現状の日本社会においては、「高等学校中途退学」という学歴は受け入れがたいものである。もしも、飛び入学制度で進学した大学を卒業しなかった場合には学歴は、「高等学校中途退学」となることから、各分野における優秀な能力を持つ者であっても飛び入学制度での大学進学に踏み切れないと思われる。それによって各分野での優秀な能力を持つ者を飛び入学制度で受け入れることが困難となる。
- ・万一、志半ばにおいて続けられなくなった場合、高校中退・中学卒になってしまうという不安を乗り越えたものしか飛び入学を選択できない。
- ・高等学校卒業程度認定試験に合格できたとしても、高校卒業となるものではなく、飛び入学生の自負に値する資格とは言えないので、高等学校卒業程度認定試験合格者は別に考える必要があると思われる。

II. 飛び入学経験者

※6 大学を通じて飛び入学経験者にアンケートを実施。飛び入学者の累計は111名で、うち有効回答を得たのは34名。34名の最終学歴は以下のとおり。

大学学部在学中：8名 / 学士：9名 / 修士：11名 / 博士：4名

中学校卒業：1名 / 高卒認定試験合格 1名

なお、飛び入学をした後、学士号を取るまでに進路変更をした者は6名（同じ大学内で学部・学科を変更2名、大学院に飛び入学1名、国内の別の大学に転学1名、その他退学1名、不明1名）

(1) 飛び入学を検討し始めた時期はいつ頃か

- ①高校入学以前 5 (15%)
- ②高校1年生時 4 (12%)
- ③高校2年生時 25 (73%)

(2) 飛び入学を選択した理由は何か(複数回答可)

- ①早い時期から高度な学修や練習環境に触れられる 26
- ②早い時期からある程度自由な学修・練習が可能となる 20
- ③大学進学以降の人生設計の選択肢が広がる 3
- ④経済的負担が少ない 11
- ⑤高校生活への不満 13
- ⑥その他 7

- ・充実したプログラム(少人数授業、夏季語学研修など)が魅力的だった
- ・大学受験のチャンスが1回ふえるから
- ・海外に行くためのステップ

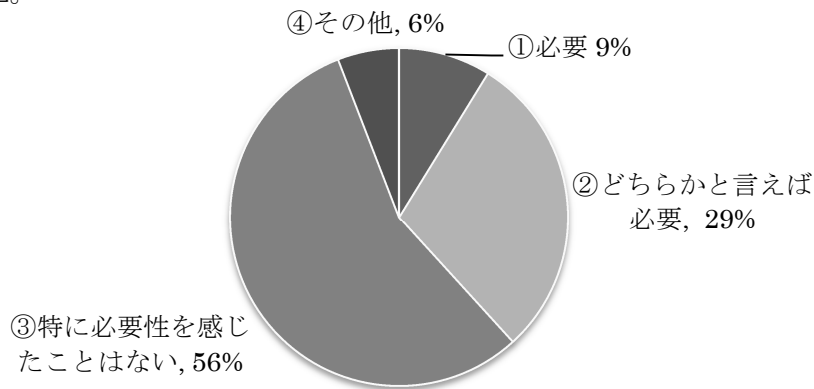
(3) 飛び入学を検討する上での不安材料となったものは何か(複数回答可)

- | | |
|---|----|
| ①通常期間の高校生活を経験しないことなど体験が少ない面で不安 | 7 |
| ②年齢の異なる集団になじめるかなど進学先の大学での不安 | 7 |
| ③高校卒業とならず進路変更をすると最終学歴は高校中退になってしまうことでの不安 | 9 |
| ④不安はなかった | 18 |
| ⑤その他 | 1 |
- ・入試に落ちた場合、高校の同級生から冷たい目で見られる恐怖

(4) 今後の飛び入学者に「高校卒業」を認めることは必要と考えるか。

- | | |
|-----------------|----------|
| ①必要 | 3 (9%) |
| ②どちらかと言えば必要 | 10 (29%) |
| ③特に必要性を感じたことはない | 19 (56%) |
| ④その他 | 2 (6%) |

- ・飛び入学生を増やしたいのであれば必要。学生の数よりも質を重視するのであれば、高校の早期卒業を認めないほうがよい。そのほうが覚悟のある学生を集めるのに適している。
- ・不要:早く卒業することが偉い、3年かけて高校を卒業することが劣等、という風潮にならないか心配。



(5) 「高校卒業」の必要性はいつ感じたか。(複数回答可、上記(4)で①、②と回答した者のみ回答)

- | | |
|---------------------------|---|
| ①大学入学以前(飛び入学を検討、選択する時も含む) | 9 |
| ②大学学部在学中(大学入学後～学士を取得するまで) | 3 |
| ③大学卒業後 | 1 |
| ④その他 | 2 |

- ・中退を嫌がる保護者の対策
- ・学部で進路変更をしたい学生にとっては必要。

(6) 「高校卒業」の必要性を感じた具体的な理由は何か。(複数回答可、上記(4)で①、②と回答した者のみ回答)

- | | |
|---|---|
| ①高校中途退学では、進路変更が困難 | 8 |
| ②資格試験の受験資格がない | 2 |
| ③就職活動で不便・不利益があった | 1 |
| ④●●高校のOB・OGになれない(例えば同窓会などの組織に入会できない) | 7 |
| ⑤周りが高校を卒業をしている中で、自分だけ卒業扱いにならないのはなんとなく不安 | 5 |
| ⑥その他 | 1 |
- ・周りがうるさい

Ⅲ. 高校生等（科学オリンピックの出場者等）

※数学オリンピック、化学オリンピック、物理オリンピック、情報オリンピック、地理オリンピック及び地学オリンピックの出場者や研修参加者84名にアンケートを実施。うち、有効回答を得た63名の属性は以下の通り

- ・男性57人 /女性6人
- ・年齢14～18才（うち中学生5名）
- ・私立高校35人、公立高校23人、私立中学校5人

（1）高校2年間を終えた後、進学を希望する大学に飛び入学制度があれば利用したいか。

利用したい 32（51%） / 利用したくない 31（49%）

（2）飛び入学のメリットは何か（複数回答可）。

- | | |
|---------------------------|----|
| ①早い時期から高度な学修や練習環境に触れられる | 31 |
| ②早い時期からある程度自由な学修・練習が可能となる | 27 |
| ③大学進学以降の人生設計の選択肢が広がる | 8 |
| ④経済的負担が少ない | 8 |
| ⑤その他 | 9 |

- ・飛び入学があると、早い時期から自分が何をやりたいのかを考え挑戦するきっかけになる
- ・飽きない、興味がつきない
- ・大学構内に気がねしないで、自由に入ることができる。

（3）飛び入学を検討する上で不安材料となるものは何か（複数回答可）。

- | | |
|---|----|
| ①通常期間の高校生活を経験しないことなど体験が少ない面で不安 | 28 |
| ②年齢の異なる集団になじめるかなど進学先の大学での不安 | 19 |
| ③高校卒業とならず、進路変更をすると最終学歴は高校中退になってしまうことの不安 | 32 |
| ④不安は全くない | 6 |
| ⑤その他 | 12 |

- ・科目の履修度合に大きな偏りが生じる可能性がある。
- ・得意分野以外で十分な能力を得られるかは分からない。
- ・3年次でのものも含め、高校で学習する幅広い学力を身につける必要があると思う。
- ・得意科目であっても本来受けるはずの高3の課程の内容で知らない知識がある可能性
- ・部活動、コンテスト等の活動ができない
- ・大学で同学年と一緒に成人式に出られなくなる。
- ・高校の同級生とその後の高校生活を過ごすことができなくなることは心残り
- ・むしろ高校生活が楽しいので留年したい、高校生活は最後まで同級生と過ごしたい
- ・周りからの過度なプレッシャー

(4) 飛び入学者に「高校卒業」を認めることは必要と考えるか。

- ①必要 40 (64%)
- ②どちらかと言えば必要 9 (14%)
- ③特に必要性を感じない 7 (11%)
- ④その他 7 (11%)

- ・卒業したという事実はないので必要は無いが、「中退」という言い方は語弊がある
- ・どちらでもよい

